信仰・祭祀 1

京都市域の前方後円墳

http://www.kyoto-arc.or.jp
（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

前方後円墳の時代

京都市内の古墳の数は約 500 基、うち前方後円墳は 21 基ある。したがって、古墳の圧倒的多数は古墳時代後期に造られた群集墳ということになる。これは全国的に共通する現象でもある。では、なぜ前方後円墳は少ないのだろうか。

前方後円墳はその独得の墳形に特色がある。そして、墳丘規模の巨大さ、主体部構築の厳重さ、副葬遺物の豪華さは、常に最上位の墓制であったことを示す。前方後円墳は畿内の大王陵に始まり、やがて地方の首長の墓に採用されて造り続けられる。しかし、この墳形を採用できたのは地域を治めた首長に限られた。前方後円墳が少ないのもこれで説明がつく。この時代においては、古墳の形が首長の身分を決定していたのだ。

しかし、時期が下るとともに円墳や方墳も含めて古墳の数は増加する。古墳を造る階層が増加したのである。群集墳の築造はこうした流れの最終段階に位置付けられる。しかもその増え方は爆発的と形容できる。それは一種の社会現象だったのだろう。

市内の前方後円墳

1　常盤柏ノ木 1 号墳・2　常盤柏ノ木 2 号墳　消滅。詳細不明。

3　太秦馬塚古墳　全壊。跡地は墓地として残る。

4　仲野親王陵古墳　仲野親王高畠陵として宮内庁が管理。完存。

5　清水山古墳　1973 年に消滅。

6　天塚（あまつか）古墳　主体部に横穴式石室が 2 基ある。須恵器や馬具が出土。後期。墳丘は完存する。

7　蛇塚古墳　前方後円形の地割が残る。巨大な横穴式石室が露出していることで有名。後期。

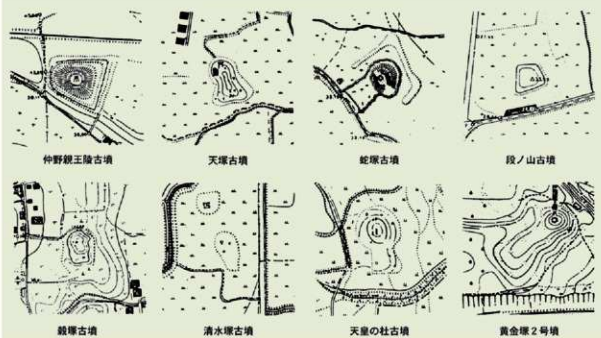
8　段ノ山古墳　古地図に盛り上がりが描かれるが、現在は消滅。

9　山田桜谷 1 号墳　1986 年に確認。墳丘は変形が著しい。中期。

10　穀塚古墳　竪穴式石室と粘土槨が検出され、馬具や鉄刀、金銅製帯金具が出土。消滅。中期。

11　清水塚古墳　削平され畑となっている。詳細不明。

12　天鼓（てんこ）ノ森古墳　消滅。詳細不明。



大正から昭和の初め頃の地図に描かれた前方後円墳　（1：5,000）

13　巡礼塚古墳　大正年間に甲冑や大刀が出土。消滅。中期。

14　天皇の杜古墳　1989年の調査で葺石と埴輪列を検出。大正11年（1922）に史跡となり完存。前期。

15　一本松塚古墳　明治34年（1901）に石室が発見され、銅鏡が出土。消滅。前期。

16　寺戸大塚古墳　前方部・後円部の石室より、銅鏡・玉類・刀剣が出土。後円部完存。前期。

17　妙見山古墳　後円部に石室、前方部に粘土槨あり。消滅。前期。

18　芝１号墳　芝古墳群の中の一基で竹藪内に完存。

19　番神山古墳　周濠をもつ古墳。JR奈良線にかかり消滅。

20　黄金塚１号墳　詳細不明。

21　黄金塚２号墳　後円部は伊予親王陵に指定されて完存。前期。

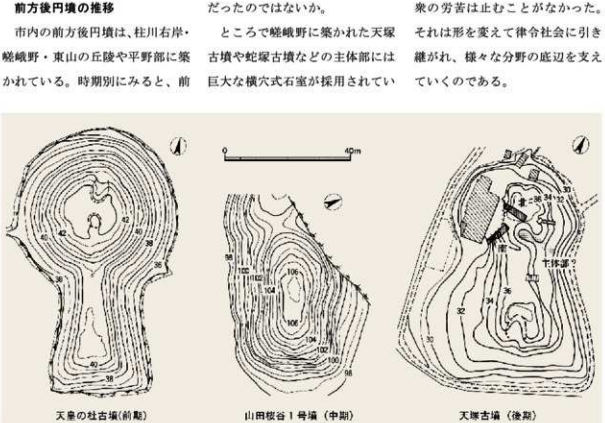
前方後円墳の推移

市内の前方後円墳は、桂川右岸・嵯峨野・東山の丘陵や平野部に築かれている。時期別にみると、前期は桂川右岸地域が優勢で、特に向日丘陵上には著名な古墳が多数築かれるが、これは平野部に営まれた集落遺跡の役割が大きい。中期に入ると、桂川右岸では中心が山田に移り、規模は縮小する。この時期は恵解山古墳・久津川車塚古墳などの巨大な前方後円墳が築かれるので、その制約を受けたとみられる。一方後期には、嵯峨野の平野部に大型古墳が築かれる。これらは嵯峨野の開発を推し進めた秦氏一族のモニュメントとされるものである。

そういえば、巨大古墳の多くは河川を見下ろす丘陵や台地に立地するものが多い。これは河川交通の掌握が重要だったからだろう。嵯峨野の前方後円墳が低地に築かれるのも、河川側からみた場合の視覚効果を意識したためだったのではないか。

ところで嵯峨野に築かれた天塚古墳や蛇塚古墳などの主体部には巨大な横穴式石室が採用されている。前方後円墳は本来、前方部と後円部を一体的に造っていたが、横穴式石室が採用されると石室を覆う後円部が先に盛られ、前方部は付随的な価値しかもたなくなる。また墳丘を巨大にすると、どうしても長い羨道をもった石室が必要となる。このあたりにも、後期に入って前方後円墳が衰退する要因があったのだろう。双ケ岡１号墳・大覚寺１号墳など横穴式石室をもつ大型円墳が築かれるのも、前方後円墳がすでに過去の墳形となっていたためであろう。

さらに、中国・朝鮮から律令制度が取り入れられると、古墳を築いて身分を示す意義は急速に薄らいでいく。中央政府の官僚制度に組み込まれることで首長の権威が保てたからである。かといって、前方後円墳の築造に傾けられた民衆の労苦は止むことがなかった。それは形を変えて律令社会に引き継がれ、様々な分野の底辺を支えていくのである。



前方後円墳の墳丘測量図